

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

個々に応じた教育活動を通して、社会で自立するための知識や職業観を備えた人物を育成する【スクールミッション】

- 1 多様性を磨く 【自分と他者を大切にすることを養い、絶えず人権意識を見つめなおす生徒・教職員を育成する】
- 2 キャリア教育 【自らの生き方やキャリアについて考え、未来を切り開く力を養い、自立した社会人を育成する】
- 3 チャレンジ精神 【教育活動・学校行事等を通して、積極的にチャレンジする意識を高め、自己肯定感の向上につなげる】
- 4 支援マインド 【生徒が「学校に行きたい」「先生に相談したい」と思える、生徒に寄り添った学校（心の居場所）をつくる】

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

(1) 「わかる授業」をめざした授業改善への取組み、生徒の基礎学力を定着させ確かな学力を身に付けさせる。

ア 授業内で生徒が「できた。わかった」と感じられるように、「生徒支援」と「教科指導」の両輪で授業づくりをめざす。

イ 観点別学習状況の評価や授業アンケート、学校教育自己診断の結果を活用し、授業改善を進める。

ウ 基礎学力の定着に向け、0 限め授業・西野田クエスト（本校独自の取組み）を充実させる。

西野田クエスト：個々の学習レベル【グレード】に応じた学習課題を設定し、課題とテスト【ミッション】をクリアすると次のグレードに進み、さらに学びを深める総合的な探究の時間での取組み。

※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「授業内容は分かりやすい」の肯定感を令和9年度まで85%以上を維持する（R4：100%、R5：88.9%、R6：93.3%）

## 2 安全安心で魅力ある学校づくり

(1) 個々の生徒への支援体制の強化と生徒の居場所づくり

ア 生徒指導から生徒支援へのマインドセットを図り、支援C oを中心に生徒情報の共有やアセスメントを進め、専門人材（SC・SSW等）や関係機関と連携しながら支援体制の強化を図る。

イ 個別の教育支援計画等の支援ツールのブラッシュアップを図り、支援の接続が円滑に進められるよう、卒業後の進路先（大学・企業等）や機能統合校と連携を図る。

ウ 全教職員により生徒との信頼関係に基づく一致協力した生徒支援体制を築き、学校が安心して登校できる居場所となるような学習環境を整備する。

エ 不登校等の未然防止に向け、生徒情報の共有を積極的に行い、家庭や関係機関と連携しながら、課題を抱えた生徒に寄り添った支援・サポートを行う。

※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」の肯定率を令和9年度まで85%以上を維持する（R4：92.3%、R5：72.2%、R6：93.3%）

(2) 安全教育の充実と安心安全な教育環境整備の推進

ア 外部機関と連携した交通安全・薬物乱用防止・防災防犯等の講習を行い、日ごろから生徒に安全教育について意識させるとともに、生徒の健康の保持増進にむけた取組みを推進する。

イ 人権・多様性を尊重する支援教育・人権教育の推進に向け、校内研修を実施し、生徒・教職員の人権尊重の意識を高める。

ウ 生徒の安全を優先する老朽化施設・設備等の修理・廃棄等を行い、教育環境の整備を推進する。

※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「いのちの大切さや社会のルールや人権について学ぶ機会がある」の肯定率を令和9年度まで90%以上を維持する。（R4：100%、R5：88.9%、R6：100%）

(3) 令和9年度、今宮工科高校へ機能統合

ア 再編整備対象校として、令和9年度末の機能統合まで、在籍生徒の教育環境を保障する。

イ 機能統合校に継承する本校の特色やデータ、書類等の引継ぎに向け調整を進める。

※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「学校に行くのが楽しい」の肯定率を令和9年度までに85%以上にする（R4：100%、R5：83.3%、R6：80.0%）

## 3 キャリア教育の推進と自己肯定感の醸成

(1) 発達段階に応じたキャリア教育の推進

ア 生徒の進路希望に応じた適切な情報を提供し、自己の適性や能力についての気づきを与え、進級（卒業）を意識させながら、自己決定・自己判断を促す。

イ 総合的な探究の時間等を活用し、系統立てたキャリア教育を進め、生徒が自らのライフプランやキャリアデザインについて考える場の充実を図る。

※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を令和9年度まで90%以上を維持する。

（R4：100%、R5：94.4%、R6：93.3%）

(2) 特別活動等を通してチャレンジ精神・自己肯定感を醸成する

ア 短い部活動時間であっても、効率よく活動し定時制通信制大会等へ積極的に参加する。また、部活動を通して集団の規律のあり方などを理解させる。

イ 学校行事等の校内外の活動を通してチャレンジ精神や他者と関わる力を養うことで、生徒の達成感や自己肯定感を高める。

※指標：学校教育自己診断の生徒アンケート「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率は令和9年度まで90%以上を維持する。

（R4：100%、R5：94.4%、R6：100%）

## 4 校務の効率化と働き方改革の推進

(1) 働きやすい職場環境づくり及び教職員の健康管理

ア NOクラブデー、NO残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などを積極的に活用し、教職員の勤務時間の管理を行い、時間外在校等時間の減少を図る。

※指標：全教職員の年間1人当たりの平均時間外在校等時間を令和9年度までに年間50時間未満にする。（R4：54時間00分、R5：68時間7分、R6：49時間2分）

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
1. 全体的な傾向 全体的な傾向としては、令和6年度より令和7年度の肯定感が微減となっている。 2. 学校生活：生徒の自己診断結果より分析	第1回（令和7年6月6日(金)） ・令和7年度学校経営計画について、承認される。 ・障がい特性のある生徒にとって、理解しにくい授業展開がされていることが多い

府立西野田工科高等学校 定時制の課程

<p>「学校に行くのが楽しい」は92.3% (R6:80.0%)、学校行事が楽しく行えるように工夫されている」は92.3% (R6:93.3%)、「先生は学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」100% (R6:100%)等の結果から、全体的に生徒は学校生活を楽しんでいる様子である。</p> <p>3. 授業力：生徒・保護者・教員の診断結果より分析  <b>【教員】</b>「学習意欲の高い生徒や低い生徒に対する学習指導を、個に応じた視点で工夫して行っている」94.7%【R6:R6:85.0%】に対し、<b>【生徒】</b>「授業内容は分かりやすい」の結果は84.6%【R6:93.3%】と約10ポイントの差があり、教員は個別指導等を意識しながら授業を行っているが、生徒の理解につなげるには更なる授業改善が必要である。</p> <p>4. 支援体制：生徒・教員の診断結果より分析  <b>【生徒】</b>「担任以外にも、気軽に相談することができる先生がいる」84.6%【R6:93.3%】、<b>【教員】</b>「学級担任以外の教職員とも相談することができる」78.9%【R6:75%】という結果から、教員は意識的に関わろうとしており、生徒は担任との関わりで満足している部分もあることがうかがえる。</p> <p>5. 学校組織  <b>【教員】</b>各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」63.2%【R6:75%】、「生徒指導の方針について、教職員間でコンセンサスが取れている」63.2%【R6:60%】、それぞれの項目について数値が低いのは、今年度から分掌を解体し業務分担制としたことで、組織としての動き方が分かりにくくなっている影響が出ている。ただ、次年度以降も閉校に向け教職員が少なくなっていくため、学校全体を意識した取組みを進める。</p>	<p>で、全ての生徒にとって分かりやすい授業にするために、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れ、学校全体で取組みを進めてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度から校務分掌をなくし教職員全体で業務を分担し、学校運営等を進め、教職員数の減少に対応できるよう準備を進めている。ただし、分掌長等は教育委員会に報告しなければならないので、任命している。</li> </ul> <p>第2回 令和7年10月20日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度の教科書の選定について承認される。</li> <li>今年度の求人数等の数値と傾向および就職活動の状況について報告する。</li> <li>支援体制として月に1回の支援会議(ケース会議)を設定、SC、SSWにも参画してもらえよう日程を調整している。また個別の教育支援計画のブラッシュアップを行い、成績会議後に全体共有を行っている。</li> <li>人権や多様性の尊重を進める上で、使用する言葉等について教職員全体で共有した。</li> <li>再編整備に向けた設備等の移設・廃棄に必要な費用概算を府教育庁に提出した。</li> </ul> <p>第3回 令和8年2月8日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度学校経営計画・学校評価および令和8年度学校経営計画について、文言修正ののち承認される。</li> <li>次年度も分掌業務の分担制を継続し、さらに学校行事を学級活動へと移行するなどの見直しを行いながら、生徒に影響の出ない範囲で業務の効率化を図る。</li> <li>令和9年度に今宮工科へ通う4年次生の学習環境の変化(電車通学や見知った教職員が少なくなる等)や不安に対し、しっかりサポートできる体制を整えてほしい。</li> <li>観点別学習評価については、今後も各教科でブラッシュアップしながら日々の学習評価をみとってほしい。</li> <li>高等学校における個別の教育支援計画がなかなか現場に浸透していない現状ではあるが、今年度ブラッシュアップした内容でしっかりと定着させてほしい。</li> </ul>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成	<p>(1)「わかる授業」をめざした授業改善への取組み、生徒の基礎学力を定着させ確かな学力を身に付けさせる。</p> <p>ア 「生徒支援」と「教科指導」の両輪で授業づくり</p> <p>イ 指標を活用した授業改善</p> <p>ウ 基礎学力の定着</p>	<p>ア 生徒の特性や学習状況に鑑み、ユニバーサルデザインを意識した教材や教授法に工夫し、全ての生徒にとって「わかる授業」をめざす</p> <p>イ 観点別学習状況の評価と授業アンケートや学校教育自己診断を活用することにより、PDCAサイクルを確立し、授業改善を推進する。</p> <p>ウ 基礎学力定着のために0時限目授業と西野田クエストの充実発展を図る。</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」の肯定率90%以上を維持する。[93.3%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員向け学校教育自己診断の項目「教育実践に役立つ研修や研究に取り組める体制が整っている」の肯定率80%以上をめざす。[75%]</li> </ul> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断の項目「自分が興味・関心のもてる教科や科目がある」の肯定率80%以上にする。[66.7%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート結果、2回の平均値3.65をめざす [3.62]</li> </ul> <p>ウ 西野田クエストのグレードアップ率(※1)70%以上をめざす。[68.8%]</p> <p>※1：課題とテスト(ミッション)をクリアし、学習レベル(グレード)が上がった生徒の割合</p>	<p>ア 生徒向け学校教育自己診断の項目「授業内容はわかりやすい」のR7肯定率84.6%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員向け学校教育自己診断の項目「教育実践に役立つ研修や研究に取り組める体制が整っている」のR7肯定率：84.2%(◎)</li> </ul> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断の項目「自分が興味・関心のもてる教科や科目がある」のR7肯定率：92.3%(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケート2回の平均値：3.68(○)</li> </ul> <p>ウ 西野田クエストのグレードアップ率50%(△)</p>
2 安 全 安 心 で 魅 力 あ る 学 校 づ く り	<p>(1)個々の生徒への支援体制の強化と生徒の居場所づくり</p> <p>ア 支援体制の充実</p> <p>イ 支援の接続に向けて</p> <p>ウ 生徒の居場所づくり</p> <p>エ 不登校等の未然防止</p>	<p>ア 支援C○を中心に生徒情報の共有やアセスメントを進め、専門人材(SC・SSW等)や関係機関と連携した支援体制をつくる</p> <p>イ 個別の教育支援計画等のブラッシュアップを図り、卒業後も支援の接続が円滑に進められるよう進路先や関係機関と連携する</p> <p>ウ 生徒一人ひとりに寄り添い、教員と生徒との信頼関係を築き、生徒が学校に行きたいと思える学校づくりを行う。</p> <p>エ 不登校等の未然防止に向け、生徒情報の共有を積極的に行い、家庭や関係機関と連携を進める。</p>	<p>ア 教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」の肯定率80%以上を維持する。[75%]</p> <p>イ 支援に関する校内研修を年3回以上実施する。[4回]</p> <p>ウ 生徒向け学校教育自己診断の項目「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」の肯定率80%以上を維持する。[93.3%]</p> <p>エ 教員向け学校教育自己診断の項目「生徒指導の方針について、教員間で十分にコンセンサスが取れている」の肯定率70%以上をめざす [60%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員間の情報共有会議や専門人材が関わるケース会議を年間20回以上行う。[37回]</li> </ul>	<p>ア 教員向け学校教育自己診断の項目「教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる」のR7肯定率：78.9%(○)</p> <p>イ 支援に関する校内研修：4回実施(○)</p> <p>ウ 生徒向け学校教育自己診断の項目「担任の先生以外にも保健室や相談室等で気軽に相談することができる先生がいる」のR7肯定率：84.6%(◎)</p> <p>エ 教員向け学校教育自己診断の項目「生徒指導の方針について、教員間で十分にコンセンサスが取れている」のR7肯定率：63.2%(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報共有会議16回+ケース会議5回(○)</li> </ul>

## 府立西野田工科高等学校 定時制の課程

	<p>(2) 安全教育の充実と安心安全な教育環境整備の推進</p> <p>ア 安全教育の充実と健康の保持推進への取組み</p> <p>イ 人権教育の推進</p> <p>ウ 教育環境の整備</p> <p>(3) 令和9年度、今宮工科高校へ機能統合</p> <p>ア 学習環境の保障</p> <p>イ 機能統合校との連携</p>	<p>ア 地域の公的機関等の外部人材を活用した教職員・生徒への研修や講習を実施する。</p> <p>・生徒の健康の保持推進に向け、主体的に情報提供等を行う。</p> <p>イ 人権尊重の意識を持って、生徒対応や教員間の関係性を保てる学校環境を維持する。</p> <p>ウ 安全安心な学習環境とするための学校環境整備</p> <p>ア 在校生徒が卒業するまで、現在の学習環境を維持する。</p> <p>イ 機能統合校と本校の特色等の継承に向けた調整を進める。</p>	<p>ア 外部機関等との連携による避難訓練や講習、校内研修を年3回以上実施する。[3回]</p> <p>・「保健だより」等の生徒・保護者への情報発信を20回以上行う。[18回]</p> <p>イ 教員向け学校教育自己診断の項目「体罰やセクシャルハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」の肯定率90%以上を維持する [95%]</p> <p>ウ 環境整備の実施（雨漏対策、薬品廃棄等）【新規】</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断の項目「学校に行くのが楽しい」の肯定率を85%以上にする。[80%]</p> <p>イ 教育庁・機能統合校とのPT会議を5回以上実施する。【新規】</p>	<p>ア 外部機関と連携した講習等の回数：6回(◎)</p> <p>・生徒・保護者向けの情報発信回数：28回(◎)</p> <p>イ 教員向け学校教育自己診断の項目「体罰やセクシャルハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢に基づいた生徒指導が行われている」のR7肯定率：84.2%(△)</p> <p>ウ 安全安心な教育環境に向け、教育庁と連携を取り進めることができた(○)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断の項目「学校に行くのが楽しい」のR7肯定率：92.3%(◎)</p> <p>イ PT会議等の実施：6回(◎)</p>
3 キャリア教育の推進と自己肯定感の醸成	<p>(1) 発達段階に応じたキャリア教育の推進</p> <p>ア 進級（卒業）に向かうためのキャリア教育</p> <p>イ 系統立ったキャリア教育の推進</p> <p>(2) 特別活動等を通してチャレンジ精神・自己肯定感を醸成する</p> <p>ア 部活動へのチャレンジ</p> <p>イ 学校行事等へのチャレンジ</p>	<p>ア 生徒の進路支援を充実させ、全員の進路が決定した状態で卒業させる。</p> <p>・進級（卒業）に向かうためのキャリア教育を実践する。</p> <p>イ 系統立ったキャリア教育の一環として総合的な探究の時間やホームルームを活用する。</p> <p>ア 部活動時間が短い中であっても、効率よく活動し、定時制通信制大会等へ積極的に参加する。</p> <p>イ 達成感、自己肯定感を高めるために、学校行事等を通して、チャレンジ精神や他者と関わる力を養う。</p>	<p>ア 卒業時の進路未決定者0人を維持する。[0人]</p> <p>・進級（卒業）率90%以上をめざす。[84.2%]</p> <p>イ 外部連携したキャリア教育関連の講習会・会社訪問など3回以上を維持する[3回]</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事や生き方について考える機会がある」の肯定率、80%以上を維持する。[93.3%]</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断の項目「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」の肯定率90%以上を維持する。[100%]</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断の項目「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」の肯定率90%以上を維持する。[93.3%]</p>	<p>ア 卒業生の進路未決定者：0人(○)</p> <p>・進級（卒業）率：92.8%(◎)</p> <p>イ キャリア関連の実施回数：キャリアガイダンス（3回）＋会社等訪問（17回）(◎)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の項目「将来の仕事や生き方について考える機会がある」のR7肯定率：84.6%(◎)</p> <p>ア 生徒向け学校教育自己診断の項目「先生は、学校生活で自分が努力したことを認めてくれる」のR7肯定率：100%(◎)</p> <p>イ 生徒向け学校教育自己診断の項目「学校行事が楽しく行われるように工夫されている。」のR7肯定率：92.3%(○)</p>
4 働き方改革の推進と校務の効率化	<p>(1) 働きやすい職場環境づくり及び教職員の健康管理</p>	<p>ア NOクラブデー、NO残業デーの実施及び学校閉庁日の設定やゆとり月間、週間などの積極的な活用</p>	<p>ア 全教職員の年間1人当たりの平均時間外勤務時間について年間50時間未満にする。[49時間2分]</p>	<p>ア 全教職員の年間1人当たりの平均時間外勤務時間：63時間24分(△)</p>